



図2 NLM: 2階事務部からカード室をのぞむ

架の端には請求された雑誌が持出されて積んであるからそれを複写して雑誌はそこに返し、次の書架に移っていくという具合である。オペレーターは身障者で、ボタンなどは操作しやすいように工夫されている。身障者の雇用は政府機関に義務づけられているが、福祉のおひぎ元だけのことはあると思った。撮影済のマイクロフィルムから高速の静電型プリンターで複写をとり、それに計算機から打出された送付票を重ねて二つ折りにしてホッチキスでとめて郵送する。一々封筒に入れる手間もいらずすべてが大変スピーディな印象をうけた。

MEDLARSのサービスは国内に限られない。全世界で37カ所の図書館が地域サービスのセンターになっている。カナダの17カ所は地つづきだから当然として、英国が14カ所と多いのが注目される。日本は科学技術情報センターがそれになっている。

大きな情報のデータ・ベースができ、それに伴っていろいろきめの細かいサービスが得られることはよいこと

である。医学に限らず他の分野でも大型データ・ベースの開発が最近盛んになってきたのもうなづけることである。しかしそれがほとんど外国で行われていて、日本はそのサービスをうけるだけというのはどうであろうか。石油をすべて中近東から輸入しているのと似たところがあって、日本の学問の基盤を強固にするためには考えなければならぬ問題をふくんでいると思われる。

因みにNLMの年間予算は1975年度90億で、これには460人の人件費が入っている。科学技術情報センターは全分野をカバーしているわけであるが、その52年度予算は42億のうち60%が政府支出である。人員は約330人である。(1977年6月9日受理)

文 献

- 1) G.N.Eaves; Who reads your project grant application to NIH, Federation Proceedings, 31, 1, p.2-9 (1972)

正 誤 表 (6月号)

頁	段	行	種 別	正	誤
328	右		写真 Fig.5	表裏逆にする	裏がえし